

古典派経済学とケインズ経済学との違い

1130473 橋口 祐哉
高知工科大学マネジメント学部

1、概要

本研究は、古典派経済学とケインズ経済学との違いについて焦点を当て、古典派とケインズ派それぞれの基本的理論を体系的に整理し、両者を画一する相違点を考察した。

その結果、両者を画一する相違点は、労働市場、市場価格、貨幣需要の 3 点に対する捉え方にあることが示された。

2、背景

ケインズ経済学は 1936 年にイギリスの経済学者ジョン・メイナード・ケインズが著書「雇用・利子および貨幣の一般理論」で公表した理論が中心なり、後に経済学として確立されたものである。それまで主流であった経済学を古典派経済学という。ケインズはケインズ・モデルと呼ばれる様々なモデルを構築し、経済状況を分析した。彼の理論は後に、ケインズ革命とも呼ばれるほどの革新を成し遂げた。

3、目的

二つの代表的な経済学を取り上げ、学習することで 4 年間学んできたことに更に深みを持たせたい。

4、研究方法

既存文献を参考にし、古典派とケインズ派の基本的な理論を体系的にまとめ、それぞれの特徴を浮き彫りにして、両者を画一する相違点は何か考察する。

5、結果

古典派経済学の特徴は価格・賃金を伸縮的に捉えることである。古典派の理論では価格・賃金が経済状況に合わせて伸縮的な変動をする（市場メカニズムが働く）ことで自然と経済の均衡が保たれるとした。また、貨幣の需要に対しては取引需要に重点を置いた。

一方、ケインズ経済学は価格・賃金を硬直的なものとして捉えており、経済の不均衡を解消するためには、政府による公的介入が不可欠だとした。そして、貨幣の需要に対しては、取引需要に加え、予備的動機、投機的動機について重点を置いている。

これらの要素を踏まえ、両者を比較してみると、労働市場、市場価格、貨幣需要の 3 点の捉え方に両者を画一する相違点があることが考察された。

6、考察

労働市場の捉え方

- ① 古典派は、賃金が市場メカニズムの働きによって伸縮的に変動することで、完全雇用が実現されるとした。
- ② ケインズ派は、賃金は硬直的なため、失業の解消には公的介入によって、有効需要を増大させることが必要だとする。

市場価格の捉え方

- ① 古典派は、価格が市場メカニズムによる働きで伸縮的に変化することで、需要と供給のバランスがとれるものとした。
- ② ケインズ派は、価格は硬直的であるとし、

古典派の理論に対し異を唱えた。

貨幣需要の捉え方

- ①古典派は、貨幣の需要は取引需要にあると
していた。
- ②ケインズ派は、貨幣の需要は取引需要のみ
ならず、予備的動機、投機的動機にもある
ことを提唱した。

参考文献

- 中谷 巖著「第五版 入門マクロ経済学」 日
本評論社 2009 年
- 加藤 涼著「現代マクロ経済学講義」 東洋
経済新報社 2007 年
- 吉川 洋著「現代マクロ経済学」 創文社
2000 年
- J.M.ケインズ著「要約 ケインズ 雇用と利
子とお金の一般理論」 山形 浩生訳 ポ
ケット出版 2011 年
- 有馬 秀次著「Excel で学ぶやさしいマクロ
経済学」 オーム社 2005 年
- ジェームズ・トービン著「マクロ経済学の再
検討」 浜田 宏一、藪下 史郎訳 日本
経済新聞社出版局 1981 年